

日本文化政策学会主催

「文化財保護の歴史と政策」研究会開催案内

日本文化政策学会では、標記の研究会を下記により開催いたします。会員の方はもちろんのこと、会員以外の方でご関心ある方は奮って参加ください。

記

1.日時 2018年6月23日(土) 午後2時～4時30分

2.テーマ・発表者

【テーマ】 市民参加型発掘調査が文化を変える

【発表者】 土屋正臣氏〔城西大学現代政策学部助教〕

【発表内容】今日の文化財保護行政では、市民の直接的な関与は極めて限定的である。そこに存在するのは、一つには記録保存のための発掘調査は迅速性や効率性が求められ、時間をかけた市民参加による発掘調査は難しいというシステム上の課題、もう一つは、行政が市民を啓蒙するという社会教育上の思想の問題である。本発表は市民参加型発掘調査の一つである野尻湖発掘の分析を通じて、発掘調査に市民が直接関与することの意義、特に文化的側面に焦点を絞って論じ、今日の文化財保護行政が抱える課題にアプローチしたい。

※発表者の土屋正臣氏は『市民参加型調査が文化を変える－野尻湖発掘の文化資源学的考察－』（美学出版 2017年5月）の著者です。

3.会場

法政大学大学院 6階 601教室（所在地住所 東京都新宿区市谷田町2-15-2）

<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/campus/ichigaya/ichigaya.html>

4.参加費

会員および学生は無料。非会員は500円。

5.参加申込み

準備の都合もありますので、恐れ入りますが、参加される場合は6月17日(日)までに以下のメールアドレス宛てに氏名・所属・会員の有無をお知らせください。

err-suda@jcom.zaq.ne.jp 須田英一 あて

6.懇親会

当日は研究会終了後に、有志で研究交流を兼ねて懇親会を開催したいと思います。こちらの会にも奮ってご参加ください。

7.研究会開催の趣旨

文化財政策は、近代以降の歴史的経緯の中で国—地方自治体というヒエラルキーのもとで確固たる制度に支えられて展開されてきている。だが、近年、文化財(文化遺産)は「まちづくり」の有効な資源としてもその活用が期待されている。このような状況下にある文化財に対し、歴史的な視点と現代的な課題を踏まえ、文化財の本質と今日的な政策や制度のあり方を探っていくことを目的とする。なお、本研究会では、今年度、継続的な研究発表会を約2ヶ月に1度のペースで開催していくことを予定している。

研究会担当者 馬場憲一(静岡文化芸術大学講師) 須田英一(法政大学講師)